



マキノのメタセコイア並木を守り育てる会
並木一斉清掃活動の様子



買い物支援事業のスタッフの皆さん

12月21日(火)、市民団体『マキノのメタセコイア並木を守り育てる会』主催の並木一斉清掃活動が行われ、近隣住民や有志ボランティア等の計82名が参加されました。人々を楽しませた木々のトンネルもすっかり落葉し、道や水路は真茶色に埋め尽くされていました。参加された人々が力を合わせ、約3時間で側溝に溜まった落ち葉や歩道のゴミの回収を終えることができました。

事務局の桂田さんは「今年も沢山の方に並木を楽しんで貰えた。観光客の方は喜び、近隣住民の方は誇れる地域の財産で在り続けるよう、並木を守り育てていきたい。」と仰っていました。

『一般社団法人めいどいんマキノ』は、道の駅を拠点としてマキノ地域を中心にまちづくりに取組まれています。今回は同団体が取組む買い物支援事業を小荒路で取材しました。

「高齢の方が多く、食料品や生活必需品の調達が困難なマキノ北地区に出向き、買い物などの生活支援を通じて、住民同士が見守りや安否確認を行う仕組みとして進めておられます。団体のスタッフやこのサービスを利用しに来られた人達の輪ができて、品物を楽しそうに選ばれたり、会話が弾む様子が見られました。

「買い物支援の車を楽しみに待つてくださるので頑張れます。」とスタッフの岸上さ

季節の移ろいの中で、メタセコイア並木の様々な姿を楽しめるのは、地域の方々のこうした努力が長年続けられてきたおかげです。地域の宝物として、守り育てる気運が高まることを期待します。



んは仰います。移動手段が乏しくなり、家で過ごすことが多い方には、貴重な社会に関わる場となっています。これから寒さが厳しくなりますが、人とのふれあいが、心を温めてくれると信じています。